

タチウオ



タチウオの成長

年齢	オス		メス	
	肛門前長(cm)	体重(g)	肛門前長(cm)	体重(g)
1	25	230	25	230
2	32	520	36	730
3	34	630	41	1,080
4	34	670	43	1,270
5	34	680	44	1,350

「仙台湾におけるタチウオの漁獲動向と生物特性」黒潮の資源海洋研究23号p49-55

生態

- 分布・移動：北海道以南の本州沿岸から東シナ海、朝鮮半島西岸および黄海・渤海に広範囲に分布します。
- 成熟・産卵：1歳魚で一部が産卵に関与し、2歳魚以上でほぼ全ての個体が産卵に関与します。産卵期は7～10月で盛期は9月と考えられます。調査船により採集された個体の生殖腺の発達状況や卵や稚魚の採集状況から、福島県沖でも産卵している可能性が高いと考えられます。
- 食性：成魚は魚食性が強く、イワシ類やサバ類等を捕食します。

漁獲の動向

震災前（平成12年～平成22年）の漁獲量は0.1～10.5トン、0.1百～10百万円程度の水揚げがありました。
震災以降、操業自粛と国による出荷制限のため水揚げはありませんでしたが、平成27年から試験操業が開始されました。漁獲量は0.1～98.3トン、漁獲金額は1～129百万円（H27～29年は相対取引のため、漁獲金額データなし）で推移しています。令和2年以降漁獲量、漁獲金額ともに急増し、令和4年は98.3トン、129百万円と過去最高になりました。また、震災後では、固定式さし網による漁獲割合が最も高くなりました。

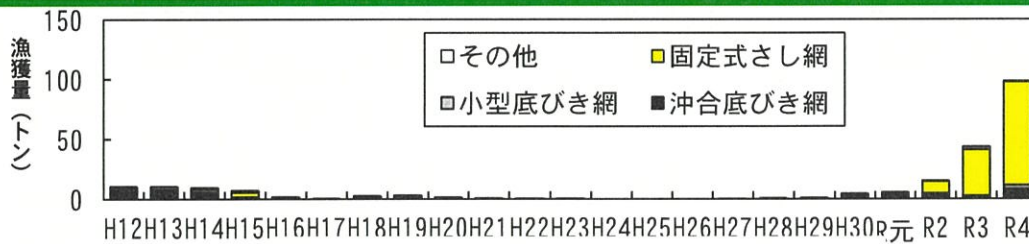


図1 タチウオの漁業種類別漁獲量の推移

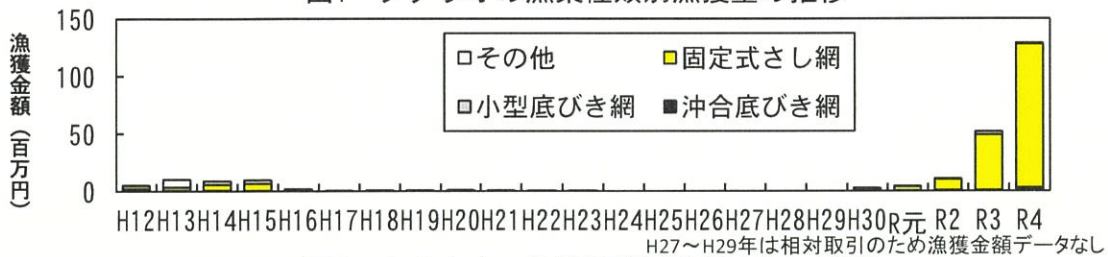


図2 タチウオの漁業種類別漁獲金額の推移

資源の状態

○主な漁業種類である固定式さし網のCPUE（単位努力量あたり漁獲量）データがないため、資源状況は分かりませんが、漁獲量の変動から増加傾向と考えられました。

資源の水準：不明
資源の動向：増加

現在実施されている管理策

特にありません。

今後考えられる管理策

産卵盛期（9月）の漁獲圧を減らすことで、産卵親魚を獲り残し、産卵量の増加につながるものと考えられます。